

2019年度 PC 実技 第2問(文字起こし)

宮川優子と申します。社会福祉法人エゼル福祉会役員をしております。今日は、「日本国憲法と社会保障制度」について、お話をいたします。社会福祉制度の根拠は日本国憲法にあります。日本国憲法の前半は人権宣言、後半は政治機構、政治システムからなっております。前半の人権宣言は、国によっては憲法と言わず、権利章典とか、人権宣言、フランス人権宣言のように別のものになっているところもあります。日本では1条から40条までがこの部分にあたります。自由権、参政権、社会権などからできています。今の順番は、時代が古い順に申しました。18世紀のころの人たちは、人権というと自由権しかなかった。時代によって人権の内容が深まってきたというふうにも言えます。参政権は19世紀。イギリスで選挙権運動などが出てきたことに由来します。そして今日の社会保障システムの背景になりますのが、社会権で、20世紀の前半、第一次世界大戦後のドイツワイマール憲法に明文化されたのが最初だというふうに言われています。今までは国家からの自由。できるだけ私のことに触らないで、というものが主体であった自由権と全く逆で、国家は国民を守らなきゃいけないということです。

どうしてこんなふうに権利の内容が広がっていったり変わっていったかというのは、実は資本主義という経済システムと関係があります。資本主義というのは、放っておくと野蛮な弱肉強食で、働かないとご飯が食べられないというものです。近世やもっと古い中

世の時代は、地方で農業をやっている、血縁、家族ですね。地縁、地域社会。あと宗教。ヨーロッパですと教会、日本ですとお寺などがその支えをしていたわけですが、資本主義が始まると、みんな都会の工場労働者を目指して、農業を辞めて出てきちゃうわけです。そうすると、隣の人は誰かわからないわけですから、助け合う仕組みというのはできません。ありません。そこで、いったん怪我だとか病気だとかアクシデントが起きたときに、その人たちは生きていかれないということなんです。貧困というのは当時の考え方で、個人の責任だと思われていたから、体の調子が悪いのは今風で言えば自己責任だし、病気になるのは不摂生だろ、それから首になってしまうのは自分が一生懸命にやらないからだ。というのが当たり前の社会構造です。

ところが、資本主義というのは景気循環が必ずあります。不景気だったり、好景気だったり。好景気ときは仕事がどんどん増えて問題ないのですが、不景気になると、倒産したり、失業者が出たり、ということが当たり前になります。資本主義は景気循環は避けられず、それによる貧困は社会の責任だということを分析したのがマルクスです。ここで市場に任せておく。市場経済に任せておきっぱなしでは、解決できない。ほったらかしにしては解決できないから、国家がやらなければならないんだというのが 19 世紀に出てきます。誰にも解決できない貧困の問題、当時は飢えです。ご飯が食べられない。そのまま放っておくと死んでしまうんだという状態です。そうすると、国家は何らかの形で貧困から回復していく仕組みを作らなければならない、ワイマール憲法をベースにし

た社会権を持った現代の先進国では、社会保障制度が具体的な形となっています。